

ラベル焼却、自らCO₂吸収

自動認識システムを手掛けるサトーは、東京理科大学発ベンチャーのアクティヴ（千葉県野田市、長浜正光社長）と、焼却時に発生する二酸化炭素（CO₂）を自ら吸収するラベルを共同開発した。吸収剤を加えていないラベルに比べ、燃焼時に発生するCO₂を20

サトー・東京理科大発VB

%以上削減できることを実験で確認した。東京理科大の阿部正彦教授の研究グループが開発した「ナノベシクルカプセル」と呼ぶ技術を活用。100ナノ（ナノは10億分の1）以下のカプセル状の物質をラベルの粘着剤に混ぜ、CO₂の吸収剤として使う。吸収

粘着剤にナノカプセル

剤はナノ単位の孔が多数開いた形状で、燃焼時に発生するCO₂と反応して吸着する仕組み。同技術を用いたラベルを近く製品化する。詳細は今後詰める。まず台紙のないロール状のラベルに応用する考え。シールやラベルに加えチケットやリストバンド、カーボンリボンなど、サトーが手掛ける他の製品への展開も検討している。